

季刊誌「彩」創刊



太齋 京子さん
(35歳・◎廻館)

町民による手づくりの季刊誌「彩」が創刊しました。主婦の太齋京子さんが企画し編集したもので、呼びかけに応じた町民が執筆や写真を担当して、地域の歴史や文化、人々の暮らしなどを紹介しています。

三重県出身の太齋さんは7年前に夫の仕事で南三陸町に移り済み、普段の生活の中で、地域の人たちとふれあっていくうち、この地域の人々の暮らしの中には、伝統や文化風習がしっかり溶け込んでいる印象を持ったそうです。しかし、町内でも少し離れると互いの文化を知らな

い人が多いことにも気づき、「私自身が地域のことをもっと知りたいし、みんなにも知って欲しい。」と考えたことが、季刊誌発行のきっかけとなりました。

創刊号はB5判カラー12ページ、全体的に和の雰囲気、内容は地域の婚礼文化の紹介、都会から移住した方のエッセー、母と娘のふれあいで気づいたことなどが収められています。

1部300円で9月12日(水)から販売を始めましたが、印刷した500部はほぼ完売し、増刷中です。

「町民がライター、読者はスポンサー」をモットーに取り組みたいと話す太齋さんは、「お金を払って読んでくれる人たちがいるから発行できるということを忘れずに、良い紙面づくりに努めたい。読者の中から書いてみたいという人が出てくれることを願っています。多くの町民が執筆や編集に関わって、まちづくりにつながればうれしいです。」と抱負を話してくれました。

「彩」は年4回発行する計画で、次号は来年1月発行予定です。現在、定期購読者も受け付けています。※彩編集部ではスタッフを募集しています。特に、紙面のデザインに協力していただける方を歓迎します。

◇連絡先 彩編集室(太齋さん宅) ☎46-4707 (FAX兼用)
Eメール jkplanet@grace.ocn.ne.jp

※季刊誌「彩」は町の地域振興事業「平成19年度ふるさとまちづくり・ひとづくり創出事業」の助成事業です。

表紙で紹介したヒマワリを植栽した二人に話を聞きました。

きっかけは、農家が抱える遊休農地を減らすことでした。農地はいったん遊休化してしまうと、数年で雑草や雑木でいっぱいになり、土の質も変わるなど農地性を失ってしまい、また、耕作可能な農地への復旧には多くの投資と労力が必要となるからです。

そこで思いついたのが、植栽が比較的簡単で、景観作物として有効なヒマワリの植栽でした。

行政や農協の協力を得て、小ぶりの花をつける「サンオペラ」という品種を選定し、6年前から作付けが始まりました。この品種は、6月下旬に種をまき、9月上旬という秋に咲くヒマワリで、背たけが短いのが特徴です。

海と空の青に、白い雲と波、そして黄色のヒマワリの色鮮やかさは、なかなか他では見られないと思います。

近くの民宿に来た観光客などに花を楽しんでもらい、

観光客を花で迎え、地域を元気づけたい



阿部 守治さん (74歳 ◎泊浜)
阿部 元之さん (72歳 ◎泊浜)

少しでも町のPRにつながればという思いを込めながら毎年植えています。

また、地元の皆さんにも見てもらい、この地域がヒマワリのように元気になって欲しいと思います。

●みんなの掲示板●

参加者募集 キッカケ カップリングパーティー 「KIKKAKE」

出会いのチャンスはキッカケから!お気軽にお申し込みください。

- ◇日時 10月28日(日) 午前11時受付 午後3時終了予定
- ◇場所 平成の森 ※送迎については、申し込みの際にご相談ください。
- ◇募集人数 男女各25人程度
- ◇参加資格 男性 20歳以上の南三陸町在住の方、または南三陸町にある事業所に勤務している方(独身者に限る。)
- 女性 20歳以上の方(独身者に限る。)

◇参加費 男性3,000円 女性1,000円(2名以上で参加の場合無料)
※参加人数に限りがありますので、お早めにお申し込みください。
※交通手段につきましては、申し込みの際にご相談ください。
※申し込みの際に書かれた個人情報は、南三陸商工会で管理し、他に利用されることはありません。

◇問い合わせ・申し込み
南三陸商工会青年部(〒986-0752南三陸町志津川字五日町12)
☎46-3366 FAX46-5335
Eメール shidugawa@poplar.ocn.ne.jp

志津川高等学校音楽部 全国高校総合文化祭で文化連盟賞を受賞



全国大会の報告に役場を訪れた志津川高等学校音楽部の皆さん

文化祭のインターハイとも言われる第31回全国高校総合文化祭(7月29日(日)〜8月2日(土)島根県内で開催)の合唱部門に、宮城県代表として志津川高等学校音楽部が出場し、文化連盟賞を受賞しました。

合唱部門は、益田市の島根県芸術文化センター「グラントワ」で行われ、志高音楽部の皆さんは、3曲の女声合唱を披露しました。少人数ながらも心地よいハーモニーを聞かせ、また途中にトーンチャイムや吹奏楽器の演奏を織り交ぜ、島根県にちなんだ踊りも加えた演出で、観客を魅了させました。

部長の高橋真衣子さん(3年)、山内知佳さん(3年)、阿部陽香さん(3年)は、「練習の成果を発揮し、緊張の中に楽しいステージで、志高音楽部らしさを表現することができました。後輩たちには、この成果を新入生獲得につなげ、音楽部を盛り上げて欲しい。」と大会を振り返りながら話してくれました。

志津川野球クラブ・スポーツ少年団が設立10周年を迎え、記念交流大会を主催します!



志津川地区の少年野球チーム「志津川野球クラブ・スポーツ少年団」は結成10周年を迎え、10月27日(土)から2日間開催する「志津川野球クラブ・スポーツ少年団結成10周年記念交流大会」の準備を進めています。

このチームは現在、志津川、荒砥、清水の3小学校の1年生から6年生45人が所属し、監督と2人のコーチが指導にあたり、親の会が運営を支援しています。もともとは、教育委員会が主催するスポーツ教室でしたが、より多くの試合に出場できるスポーツ少年団に登録し、現在のチームとなりました。

近年力を付け始め、昨年の学童軟式野球大会の地区大会を勝ち進み、念願の県大会出場を果たしました。また、チーム卒業生が一旦商業高校で平成17年の春の甲子園への出場や、昨年の12球団ジュニアトーナメントで優勝した楽天ジュニアチームに選抜された選手もいました。

この記念大会は、指導者と親の会が中心となり、また町内4つの少年野球チームが支援を受けて準備を進めています。スタッフの皆さんは、「これまで他のチームの記念交流大会に招待されお世話になったので、今度は自分たちが他のチームを招待する番として企画しました。初めての主催ですが、大会を成功させたい。」と話していました。

この記念交流大会は20チームが出場し、次のとおり開催されます。皆さんの応援をよろしく願います。

- ◇日時 10月27日(土)・28日(日)
- ◇会場 志津川小学校、戸倉小学校、平成の森(※27日のみ)
- ◇開会式 10月27日(土) 午前8時 志津川小学校
- ◇問い合わせ 大会事務局(西城)090-7066-4104



志津川野球クラブ・スポーツ少年団の結成当時からコーチを務める遠藤則昭さんに話を聞きました。

このチームで育った子が、野球を続けていることがうれしいですね

遠藤 則昭さん
(45歳・◎中瀬町)

監督もコーチも、結成時からの仲間ですが、みんなが共通して「今試合に勝ち強いチームにすることも大事だが、それ以上に、スポ少を卒業した後も、みんなが中学、高校と長く野球を続けて欲しい。」という考えを持っています。だから私たちは、子どもたちには、技術の習得と同時に、野球の楽しさ、素晴らしさが習得できるように心がけ、指導にあっています。

このチームの卒業生は中学や高校で頑張っている話を聞くと、とてもうれしいですね。時間があれば試合に足を運んで、彼らの成長ぶりを見に行くようにしています。

野球の上達を目指して名門高校に進学する子もいて、彼らの思いと情熱に共感し、上達と活躍を心から応援します。

しかし、私としては、地元の志津川高校の野球部で活躍して欲しいという思いが強くなりますね。

スポ少結成から10年。成人を迎えた子もいます。そのうち誰かが、一緒にこのチームの指導をしてほしいか?ということ最近考えます。一緒に酒でも飲みながら、野球について語り合いたいですね。

チームの記念交流大会を開催しますので、少年たちのプレーをぜひ見に来てください。そして、皆さんの応援をよろしく願います。